

様式3

2022年度 学校法人諏訪学園 山形医療技術専門学校 作業療法学科
教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数							非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数			
作業療法学科	人	人	人	人	人	6人	7人	人	21人	21人
計	人	人	人	人	人	6人	7人	人	21人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	情報処理	30	大石英一	兼任
		国語表現法	15	藤田洋治	兼任
		体育実技	45	鬼海博行	兼任
		総合英語Ⅰ	15	豊嶋美由紀	兼任
		総合英語Ⅱ	15	豊嶋美由紀	兼任
		医学英語	15	豊嶋美由紀	兼任
		モラル学	8	島田和人	専任
		人間関係論	15	島田和人 阿部晃士、大村一史	専任 兼任
専門基礎 分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	基礎解剖生作業	45	島田和人	専任
		運動機能解剖学	15	武田祐児	専任
		神経解剖生作業	15	鈴木竜平	専任
		内臓解剖生作業	15	松澤克典	兼任
		体表解剖学	23	島田和人	専任
		解剖学見学実習	23	島田和人	専任

		生作業実習	23	鈴木竜平	専任
		運動学Ⅰ	30	島田和人	専任
		運動学Ⅱ	23	島田和人	専任
		人間発達学	15	佐藤秀則	兼任
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病作業	15	松田幹夫	兼任
		臨床心作業	15	太田優	兼任
		整形外科学	30	齋藤聰	兼任
		内科学	30	島崎明司	兼任
		神経内科学	30	藤井聡、山崎良彦	兼任
		精神医学	15	鈴木竜平	専任
		小児科学	15	五十嵐勝朗	兼任
		老年医学	15	太田健次	専任
		一般臨床医学	15	松澤克典、神保康志、 長岡明、井上聡子	兼任
		臨床薬学	8	石澤正夫	専任
		救急救命学	8	石澤正夫	専任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	石垣純子	専任
		チーム医療論	8	石垣純子	専任
		地域包括マネジメント論	8	太田健次	専任
		公衆衛生学	8	大谷勝実	兼任
専門分野	基礎作業療法	作業療法概論	30	鈴木竜平	専任
		基礎作業学実習	23	石澤正夫	専任
		病態運動学Ⅰ	30	武田祐児	専任
		病態運動学Ⅱ	30	石垣純子	専任
		作業療法研究法Ⅰ	15	鈴木竜平	専任

	作業療法研究法Ⅱ	45	鈴木竜平	専任
	作業療法研究法Ⅱ	15	太田健次	専任
作業療法管作業	職業倫作業	8	島田和人	専任
作業療法評価学	作業療法評価学	15	石澤正夫	専任
	作業療法評価学実習Ⅰ	45	武田祐児	専任
	作業療法評価学実習Ⅱ	23	石澤正夫	専任
	作業療法評価学演習Ⅰ	15	武田祐児	専任
	作業療法評価学演習Ⅱ	15	石垣純子	専任
	作業療法評価学総合演習	30	石垣純子	専任
作業療法治療学	作業療法治療学	30	武田祐児	専任
	作業療法治療学実習Ⅰ	45	内海卓哉	専任
	作業療法治療学実習Ⅱ	30	石垣純子	専任
	作業療法治療学実習Ⅲ	30	石垣純子	専任
	作業療法治療学演習Ⅰ	45	武田祐児	専任
	作業療法治療学演習Ⅱ	30	石垣純子	専任
	義肢装具学Ⅰ	15	太田健次	専任
	義肢装具学Ⅱ	15	太田健次	専任
	日常生活活動学	30	太田健次	専任
	日常生活活動学演習	45	太田健次	専任
地域作業療法学	地域作業療法学	15	太田健次	専任
	地域作業療法学演習	8	太田健次	専任
	職業関連活動学	23	石澤正夫	専任
臨床実習	作業療法見学実習	23	島田和人	専任
	地域作業療法実習	68	武田祐児	専任

	精神障害領域作業療法実習	45	武田祐児	専任
	作業療法評価実習	158	石垣純子	専任
	治療実習 I	203	内海卓哉	専任
	治療実習 II	203	内海卓哉	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
作業療法見学実習 リハビリテーション施設の見学実習	1 年前期	作業療法概論	1 年前期
		リハビリテーション概論	1 年前期
		チーム医療論	1 年前期
地域作業療法実習 通所・訪問リハビリテーションの見学および体験	2 年前期	地域包括マネジメント論	2 年前期
		地域作業療法学	2 年後期
		地域作業療法学演習	3 年前期
精神障害領域作業療法実習 精神障害領域における見学実習	2 年後期	作業療法概論評価学	1 年後期
		作業療法評価学演習Ⅱ	3 年前期
		作業療法治療学演習Ⅱ	3 年後期
作業療法評価実習 作業療法評価の実践および治療計画の立案	3 年後期	作業療法評価学	1 年後期
		作業療法評価学演習Ⅰ	3 年前期
		作業療法評価学総合演習	3 年後期
		病態運動学Ⅰ	2 年前期
		病態運動学Ⅱ	2 年後期
治療実習Ⅰ・Ⅱ 作業療法評価の実践および治療計画の立案・実践	4 年 前期・後期	作業療法治療学	2 年後期
		作業療法治療学演習Ⅰ	3 年後期
		義肢装具学Ⅰ	2 年後期
		義肢装具学Ⅱ	3 年前期
		日常生活活動学	2 年後期
		日常生活活動学演習	3 年前期
		職業関連活動学	3 年通年

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己評価委員会
委員名(委員長)	梶原賢
組織の開催頻度	年に1度(3月)
組織の取り組み内容	・ 教職員による自己評価結果の分析
	・ 自己評価結果に対する報告書の作成および公表
	・ 学校関係者評価委員会の開催
自己点検・評価結果の公表	HPで公表(URL: https://ymisn.ac.jp/outline/disclosure/pdf/02_01.pdf)

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報:シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	学校長、教育部長、総務部長、教務課長、学科長および教員
	改善の仕組みの実際	各学年担任による状況報告等により情報共有を図ると共に、学生による授業評価結果を踏まえ、卒業認定の方針に掲げた目標を達成するために、授業計画作成ガイドラインに沿って授業計画の改善を図っている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>自己点検・評価により教育活動の質の向上、学校運営の改善強化を図ることともに、その過程を通じ教職員が学校の状況や目指すべき方向性を共有する。また、関連業界、職能団体等関係者、卒業生、教育に知見を有する者などの学校関係者から学校運営、教育活動の現状における課題についての意見、要望を受け公表するとともに、継続的な改善を図りつつ特色ある学校づくりならびに質の高い運営、教育を行なうことに繋げている。</p>
